

令和3年2月2日

関係機関各位

富良野市長 北 猛俊
ふらのまちづくり株式会社
代表取締役社長 西本 伸顕

国土交通省 都市局市街地整備課 公表 「市街地整備 2.0 新しいまちづくりの取り組み方」 事例集に富良野市が取り上げられました

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。表題の件につきましてお知らせ申し上げます。

この度、国土交通省都市局市街地整備課より『「空間」・「機能」確保のための開発』から『「価値」・「持続性」を高める複合的更新』へと変換を図る「市街地整備 2.0 新しいまちづくりの取り組み方」における事例集が公表され、その中で、富良野市の取り組みが『まちづくり会社の主導による多様な公民連携事業の連鎖的な展開』の事例として掲載されました。東京都千代田区、神戸市、名古屋市を始めとする大都市や県庁所在地と肩を並べ、人口2万人強の富良野市の取り組みが事例として取り上げられたことは、非常に意義深いことと捉えております。

この度の選定は、公益的ディベロッパーである「ふらのまちづくり株式会社」が事業主体となり国の政策に基づき中心市街地の再編を主導、「富良野市」が計画策定・補助金等の支援を行うなど、それぞれの役割分担を明確化し、公民一体となって11年間にわたって取り組んできた連鎖的な「協働のまちづくり」の成果と考えております。

今後も引き続き、「中心市街地の賑わいの復活と経済の活性化」「超高齢化社会に対応するコンパクトなまちづくり」をテーマとした「ルーバン・フラノ構想」の下、中心市街地活性化基本計画に基づく事業展開を着実に推進して参りたいと考えております。

国土交通省 参考ページ URL

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi08_hh_000053.html

【本件に関するお問い合わせ先】

○富良野市建設水道部 都市建築課主幹

(街づくり推進担当)

黒崎 幸裕

TEL : 0167-39-2315

Fax: 0167-23-2123

○ふらのまちづくり(株)

統括マネージャー 吉田 育夫

TEL : 0167-23-5177

Fax: 0167-22-0511

2 市街地整備の進め方の転換

事例5 まちづくり会社の主導による多様な公民連携事業の連鎖的な展開

【富良野市中心市街地（北海道富良野市）】



まちづくりの主体

- ふらのまちづくり株式会社
- 富良野市中心市街地活性化協議会

ビジョン

富良野市中心市街地活性化基本計画
第一期、第二期
(計画期間 平成 20 年～現在)

位置



ポイント

- ◆ 病院の移転に伴う中心市街地の空洞化を契機とし、ふらのまちづくり(株)や商工会議所等で構成される「中心市街地活性化協議会」により、民間主導のまちづくりのビジョンとして「ルーバン・フラノ構想」を策定。その骨子が後の「中心市街地活性化基本計画」の原案。
- ◆ このビジョンに基づき、まちづくり会社が事業主体となって、病院跡地(市有地)での商業施設整備、再開発事業、空き建物コンバージョンなどを連鎖的に展開し、市は観光バスなどの受け入れ可能なまちなか駐車場の整備などを推進。

略年表

- 平成 15 年 「ふらのまちづくり(株)」設立
- 平成 19 年 北海道社会事業協会の富良野病院が中心市街地外に移転
・・・病院移転に伴い約 7,000 m²の敷地が空き地化
- 平成 19 年 「中心市街地活性化協議会」設立
・・・協議会作成のビジョン「ルーバン・フラノ構想」を市に提案
- 平成 20 年 中心市街地活性化基本計画(第一期)認定
・・・「ルーバン・フラノ構想」に基づき市が策定
- 平成 22 年 ふらのまちづくり(株)が病院跡地で商業施設を整備
・・・フラノマルシェとして現在も運営を継続
- 平成 27 年 中心市街地活性化基本計画(第二期)認定
- 平成 27 年 ふらのまちづくり(株)が再開発事業(東 4 条街区地区)を施行
・・・商業施設(フラノマルシェ 2 等)や認可保育所、高齢者施設、マンションを集積
- 平成 30 年 ふらのまちづくり(株)が空きビルのコンバージョン
・・・フラノコンシェルジュ(観光案内、店舗、宿泊施設など)として運営を継続

ビジョン共有・公民連携・多様な手法組合せ



ビジョンの構築・共有

中心市街地活性化協議会の
ビジョンづくり【平成 18 年～】

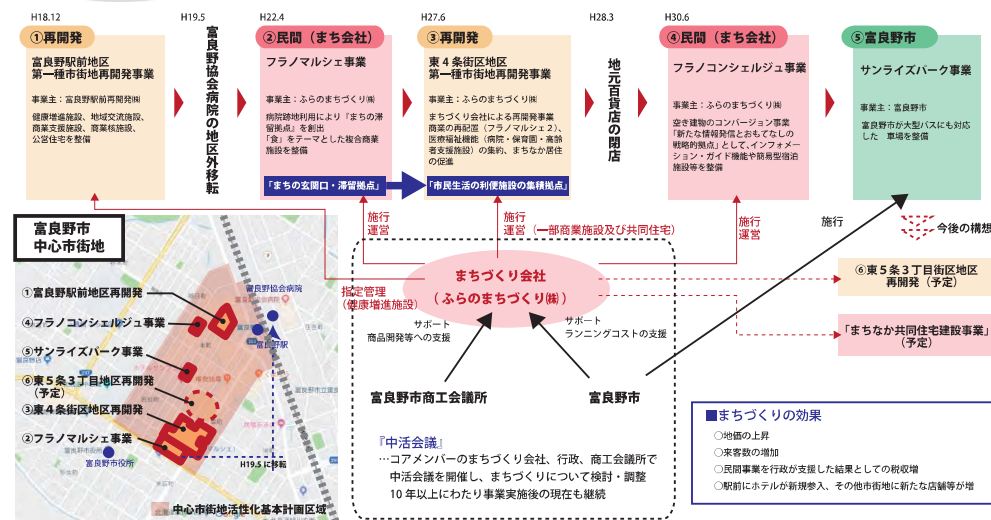
- ・地域の経営者等で構成された中心市街地活性化協議会が、自分たちの手によるビジョンとして「ルーバン・フラノ構想」を策定しました。
- ・これは、まちづくり会社、行政、事業者などの関係者が目指すべき方向性の共有する役割を果たし、後に策定される法定の「富良野市中心市街地活性化基本計画」の礎になりました。

富良野市中心市街地活性化基本計画【平成 20 年～】

- ・市民が中心市街地の魅力を感じ、溢れる賑わいを実感するための「2 大テーマ」が掲げられました。
- ① 経済のバンの拡大：「まちなかにぎわい空間」の創出で観光客を取り込みまちなかを活性化(＝地域経済の底上げ)
- ② 富良野コンパクトシティ：歩いて暮らせる利便性と機能性に富んだ魅力的な中心市街地づくり

公民連携

中心市街地活性化基本計画(ルーバン・フラノ構想)に基づくまちづくりの展開



多様な手法・取組(組合せ)

病院跡地(市有地)での商業施設整備
(フラノマルシェ事業)【平成 22 年～】



商業施設(フラノマルシェ)

東 4 条街区地区市街地再開発事業
(ネーブルタウン事業)【平成 27 年～】

- ・施設づくりのコンセプトを「生活街(市民が来街する必然性の創出)」とし、商業の再配置、医療福祉機能(認可保育所、高齢者施設、マンション)の集約、まちなか居住の促進を図り、三世代交流が促進されています。
- ・まちづくり会社と富良野市の保床取得等による資金調達の円滑化に加え、分棟形式等により事業費を削減し、富良野の地域特性を踏まえた「容積率約 100%の面的に広がる再開発」が実現しました。



再開発ビルの商業店舗(フラノマルシェ 2)

空きビルのコンバージョン(フラノコンシェルジュ事業)【平成 30 年～】



インフォメーション、ショップ

- ・三番館ふらの店(百貨店)の撤退後の空きビルをまちづくり会社が取得しコンバージョンしました。
- ・「観光・滞在・食」をキーワードとした施設構成とし、1 階(観光インフォメーション、ショップ、レストラン)、2 階(市商工観光課、商工会議所、観光協会等のオフィス)、3 階(簡易宿泊施設)が運営されています。

<図版・写真は富良野市資料、国土交通省資料より>